

北海道社会保険病院だより

平成20年1月発行 第29号

新年のご挨拶

病院長 岸 不盡彌



新年明けましておめでとございませう。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年早々当院では新しく電子カルテシステムを導入しました。診療における電子化の導入は、広く情報を共有することにより、患者の皆様の安全を確保し、医療の質を高め、より良い医療を提供することを目的としています。まだ操作に慣れないために待ち時間が延びるなどの御迷惑をおかけしている所がありますが、できるだけ早く解決したいと存じますので宜しくお願い申し上げます。

さて、かねてより地域周産期母子医

療センターのNICU（新生児集中治療室）は満床が続いている状況ですが、

4月には6床に増床する予定です。全国的に周産期医療は医療崩壊の典型の一つとして注目されていますが、幸い当院では産婦人科と小児科の協力で円滑な対応を図ることができております。

また、心臓血管センターや消化器センターも順調に動いており、呼吸器科をはじめ他の診療科におきましても、地域の中核病院として更に質の高い医療を提供できるように専門領域の充実に努めています。

4月には、医療関連法の実施で、「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき特定健診・特定保健指導事業も開始する予定です。病院も時代の要請に合わせて大きく変わっていきませんが、医療の質の中身は確保するよう努めております。

本年も職員一同、患者様を中心とした質の高い医療サービス、保健予防活動および福祉の向上を目指して参ります。

この1年もまたどうぞよろしくお願い申し上げます。

電子カルテシステム導入

システム企画室

当院は、平成20年1月より電子カルテシステムを導入いたしました。

電子カルテシステムとは、診療記事をはじめとするあらゆる医療情報が電子機能化されたシステムのことです。

今までは紙のカルテに書いていたため、診察もカルテがないと出来ないということがありましたが、電子カルテシステムでは、パソコンでカルテを管理していくので、紙カルテを待たずに診察を行う事が出来るようになります。

当面は、紙カルテも併用して一緒に確認しながらの診察になるため、待ち時間は大きくは変わりませんが、順次紙カルテ参照をなくしていく予定です。

すぐに効果は出ないと思いますが、近い将来待ち時間の短縮や今以上の安全な医療の提供につながるよう職員一同努力して参ります。

今回のシステム導入では、大きく変わったところが3点あります。

受付方法

再来受付機を予約のみに対応するこ

（裏面につづく）

とにしました。

メリットとしては、ボタン操作がなくなり診察券を入れるだけで受付が出来るようになりました。

しかし、予約以外にも受診したい科がある場合は、機械では対応出来ないためカウンターでの受付になります。

受付については、以前に比べ複雑になっていますので下記の表を参考にしてくださいと思います。

受付時は、2枚の紙が出てきます（外来基本伝票と外来受付票）。

外来基本伝票は各検査室や中央処置室、診察室の受付で出していただき、外来受付票は常に持ち歩き、患者様の確認に使用しますので、会計までは手放さないようにお願いします。

問診方法

今まで各科外来窓口で聞いていた問診を1箇所に集約しました。

初めての受診、一度治療が終了した後と同じような症状が出現した場合、以前に受診したことがある診療科でも違う症状が出現した場合など、症状を伺い適切な科に受診できるようにします。

以前は、受付・外来窓口・診察室など同じ事を何度も聞いていましたがこれが

らは、情報を共有していくことになり、患者様個人の診療記録として、いつでも、何処でも同じ記録を見る事が出来ます。

フィルムレス化

全ての画像ではありませんが、一般的な検査である胸部や腹部のレントゲン写真、CT検査、MRI検査は全て、パソコンのモニターで見ることが出来るようになりました。

フィルムの現像待ちや持ち運びがなくなり、撮影とほぼ同時に確認することが出来ます。

電子カルテシステムの導入は、医療の質の向上と業務の効率化が図れると言われています。

システムが安定稼働するまでは、ご迷惑をおかけすることもあると思いますがご理解とご協力をお願い申し上げます。



◀ 受付から会計までの流れ ▶

